

2010 年度秋学期 TA 研修 (2010 年 9 月 17 日実施)

9 月 17 日に TA 研修を開催しました。今回は 43 名の TA が授業で活躍することになっていますが、そのうち 30 名が研修に参加しました。また TA を活用する 3 名の先生方もご出席くださいました。

研修では、TA の活動内容や抱えている課題に即した内容を取り上げるため、夏休み期間中に 6 名の TA にヒアリングを実施しました。ヒアリングを通じて、TA はより質の高い活動をしたいと考え、教員からのアドバイスを受けながら、日々の活動を通じて授業方法の改善策や学生との接し方などを自分なりに省察し、改善していることがわかりました。こうした改善策は、授業内での実践や経験を基としており、教員からの指導も受けているため、有益だと考えられます。しかし、現状では TA 個人の知としてとどまっている状態でした。

そこで、研修では「TA が授業を通じて導き出した工夫や改善策を共有し、TA がさらに質の高い活動を実施していくための機会」を提供することにしました。加えて、普段の業務では知ることのできない、大学の置かれている現状や高等教育政策について学ぶ機会を設けました。

まずは、ミニレクチャーとして、アウトカム評価や分野別質保証について解説をし、そこに TA がどう関わっていくことができるのかについて話しました。

次に、TA 活動における工夫を共有するためのワークショップを行いました。TA は教材制作グループ、学生の議論を支えるグループなど活動内容別に分かれ、活動を報告し合い、他の TA と業務内容を共有しました。その後、「学生から話しかけられる、相談を受ける関係性を作るための工夫」「学生の考えを引き出すためにしている配慮や工夫」などの議題について議論をしました。最後に、グループで話し合った内容を全体に報告しました。報告された学生を支援するための方策をいくつか紹介します。

①学生と関係性を作るための工夫

- ・学生の名前、得手/不得手な分野、授業への参加態度などを把握し、必要に応じて個別に話しかけ、学生の授業への動機づけや参加態度の向上、成績の向上に役立てる。
- ・教員に学生の理解度や参加度を伝えて、学生個別の情報を提供し、学習者の支援を行う。

②学生の考えを引き出すための配慮や工夫

- ・学生と対話する際、例をあげて考えさせてみたり、学生の意見を導き出した理由について問うたりするなどして、学生が自分の考えを整理、精緻化するように支援している。
- ・学生の資質や学力に応じて厳しい質問をしたり、スモールステップで質問したりするなど、学生の個性を重視した教育を提供しようとしている。

③いかに授業に興味を持ってもらうかに関する配慮や工夫

・学生の授業への関心を高めるための方法として補助教材の作成や学習到達目標の設定を提案する

しかし、議論では、一部の学習意欲の低い学生への対処に戸惑いを感じている TA がおり、その対応に懸念している現状が伺えました。今後対応策を共に検討していきたいと考えております。

次回の TA 研修は、継続年数の長い TA を交えて、現場のニーズに応じた研修を企画・実施していきたいと考えています。TA を活用されている先生方からのご意見・ご提案もお待ちしております！連絡は、ciwasaki@kansai-u.ac.jp までお願いします。

なお、当日の詳細なプログラムや学生からのアンケート結果に関しては、「岩崎千晶のつれづれ日記2 (<http://d.hatena.ne.jp/kandaictl/>)」の 카테고리 「TA 制度」にて公開しています。是非ご覧ください。

